

モニター通信 No. 2

皆さんから寄せられた「モニター通信 7 月分」を紹介します。

「生命・損害・自動車保険等の加入(契約)で気をつけていること」

モニターから No. 1

我が家では、生命保険は掛け捨ての安いものにはっています。以前は、高額な生命保険に入っていました。安心のためにと、毎月何万円も払っていましたが、一度入院のために保険を使わせてもらいました。30万くらい保険がおり、とても助かりました。けれど...冷静に考えると、その何倍も毎月はらっていますし（それによって、結構家計は大変でした）高額療養費制度があるので、支払いには上限があるので、そこまでかかりませんでした。もしものの時の備えとして必要だとは思いますが、我が家においては、最低限のもので良いのかな、と見直し、掛け捨てのお安いものに切り替えました。毎月何万円も払うより、貯蓄に回した方が良いという考えに至りました。

人それぞれ考えがありますし、ライフプラン、ライフステージなどありますので、どれが一番よいかは人それぞれですし、ライフステージの時期にも違うかと思います。けれど、まめに見直す必要はあるのかなと思います。

モニターから No. 2

生命保険や損害保険、自動車保険は高齢者を含め、多くの人の生活にとって重要な備えとなっている。しかし、年齢を重ねると病気や事故のリスクが高まる一方で、保険商品は複雑で分かりにくいものも多いため、契約時には特に注意が必要である。私自身も還暦を迎える際に加入していた保険を見直した経験がある。その際や、自動車保険の更新など毎年の契約更新時には、特に以下の点に注意して検討してきた。

第一は、保険に加入する目的を明確にすることである。現役時代と異なり、高齢者の場合は医療費や介護費用への備え、あるいは将来残された配偶者への生活保障などが中心となる。限られた年金の収入の中で、必要な保障を考えずに契約すると、保険料だけが負担となる場合があるため、自分に本当に必要な保障を見極めることが重要である。また保険会社ごとに保険料や保障内容が異なるため、一社だけでなく複数の商品を比較検討することが重要である。

次に、保険商品は内容が複雑であり、保障内容や契約条件を十分に確認するだけでなく、契約概要や注意喚起情報を自ら確認することが重要である。特に生命保険や医療保険では、加入年齢の制限や持病に関する条件が設けられていることがある。また、保険金が支払われる条件や支払われない場合についても理解しておかなければならない。契約内容をよく読まずに加入すると、いざというときに期待した保障を受けられない可能性がある。保険料と保障内容のバランスを考えることも必要である。保険料が安い商品は魅力的に見えるが、保障内容が十分でない場合がある。一方で、必要以上に多くの特約を付けると保険料が高額になる。実際に今年二度入院した際には、加入していた医療保険によって医療費の負担軽減につながった。また、外貨建て生命

保険に加入している場合は、保険金や解約返戻金の受取額が為替相場の影響を受けるため、契約時だけでなく受取時にも為替リスクを理解しておく必要がある。

自動車保険については、加齢に伴い運転能力が低下する場合もあるため、対人・対物補償を十分に確保することが重要である。また、車両の使用年数や利用状況を踏まえ、事故時のロードサービスや弁護士費用特約など、自分の運転環境に合った補償を選ぶことも大切である。保険料についても無理のない範囲で契約する必要がある。年金生活になると収入が限られるため、補償内容と保険料のバランスを考慮しなければならない。不要な特約を見直すことで家計の負担を軽減できる場合もある。

いずれにせよ、私が最も気を付けていることは、過去の経験から学んだことである。保険会社から契約見直しの提案を受けた際には、その内容を十分に理解したうえで、自身の生活状況や必要な保障内容に照らして慎重に判断することが大切である。また、保険料と保障内容のバランスを確認し、家計の状況も踏まえながら、自分にとって無理のない身の丈に合った保険となっているかを冷静に検討するよう心掛けている。

このように、高齢者が保険に加入する際には、目的に合った保障内容を選び、契約条件を十分に理解することが重要である。また、契約内容を家族と共有しておくことで、万一の場合にも円滑に保険金請求手続きを行うことができる。保険は老後の安心を支える大切な制度であり、正しい知識を持って活用することが安心で豊かな生活につながると考える。

モニターから No. 3

各項目について、その時の年齢や家族構成で変化がある事に注目しているところです。現在81歳と高齢ですが、生命保険関係においては生活の質を落とさず、今まで通りに生活出来る事を念頭に死亡保障よりも医療保障・介護保障に軸足を置く契約にしており、また高齢者の体力に衰えと同時にケガによる入院や手術の保障に重点を置いているところです。また損害保険についても火災保険を主に、地震保険は加入しておりません。地震保険は火災保険と連動しており、茨城県南部は割高の保険掛金ようです。地震発生頻度は多いのですが、その時はその時の気分で対応したいと考えております。

最後に自動車保険（任意）ですが、毎日のように高齢者による交通事故がTV・新聞等に報道されるたびに、人身事故の場合、保険金額で賄い切れるのか気を使っているところです。間違いでは済まない交通人身事故。自己の体の衰えや感覚の鈍さ等を相互的に判断すると、保障内容をケチってはならないと思います。しかしながら、茨城県はまだまだ車が無いと生活が出来ない為に、自分自身、運転時は細心の注意を払うと同時に、車の運転は凶器を背負っている事を肝に銘じ、真剣勝負のつもりで対応したいと思っております。

モニターから No. 4

① 生命保険加入で気を付けていること。

健康で有る時には、サラリーマンは給料生活で「日々優雅な生活？」・・・、ひとたび「病魔や怪我に遭遇」すると保険加入の有無が「日々の生活を大きく変化」させてしまう。このような状況になってしまった時、一時的に補填する手段（備え）が、保険加入と考えている。予期せぬリスクに備えての準備であることから「毎月の掛け金が、支払いに大きな負担にならない掛け金」

を心がけた。その保険の種類・内容も「千差万別」で「貯蓄的要素・保障重視」どちらに^ま的を絞るかが大きな課題となっているが「賭け的要素」の商品は選択しないように心がけていた。

生命保険には、独身時の20歳代から加入していたが「病気や怪我」で、入院給付金等を受け取ったことはなく「生命保険契約が無駄」と思わせたことも有ったが、心の支えと悟り加入し続けていたことに自己満足している。生命保険は、健康や病気になれば「不必要」だが、誰しも将来のことは何が起こるかわからないので、不安を少しでも解消し・・・、いざ時の対策として保険に加入しているものと思う。私は、ほぼ5年程度ごとに、生命保険内容を全般的に「見直し」旧保険契約補償金を下取りの提出して更新更改を重ね続けて来た。この為、同僚が同じ内容を契約した場合と比較すると「2～3割程度」安価に契約することが出来、保証内容もかなり厚くすることが出来た。しかし「怪我や病気」に遭遇しなかったことにも起因することから、日々の努力も大切であるとも回顧している。

保険は「戦争や社会情勢（市中金利の変動）」には、全く保証されないのが「通例」・・・、内容をよく確かめることが肝要と思っている。（ウクライナや中東情勢の様なことは、全く考えられない事柄で有ったが、わが身に降りかからなかったことに感謝している）

戦後80年余年、掛け捨ての保険が蔓延しているが「自分の経済政策（考え方）」をしっかりと持つことが大切であると思っているが、現実的には難しい事柄となっている。

② 自動車保険加入・その他で気になること・・・。

「自動車保険」は自分の生活を守る他に「事故を起こしてしまった・事故に巻き込まれてしまった時」等にその保証を担う必要性も生じてくることから、事故に遭遇してしまった時に「被害者等に十分な償い」が出来るよう準備をして来たと思っている。約55年間普通免許を所持していたが、無事故無違反で過ごすことが出来たので、保険による支払いで償うようなことは無かった。（警察から永年無事故の表彰を受けた）

※保険金の支払いは、かなりの高額支払いを長年続けたが「事故や怪我に巻き込まれたことは無かった。」お守りの存在で、守ってくれたことに感謝している。

◎ その他・気になっていること。

運転免許取得時の交付時には、個人配布「自己責任制度」を改め「※家族(友人)」「※会社」連帯責任制度に改め「事故」が発生した場合はその連帯者が補償等一切を償うように「法整備」を考慮したら如何と考えている。

※ 個人で使用する車・会社で使用する車とも「事故責任」は、連帯保証で一切賄うこととする。働かない人・資産のない人は「車の所持・車の運転」は出来ないようにする。

※ 「会社（生活の糧を得ている職場）からの補償」「親戚友人（親戚縁者がいないときには同僚・友人からの補償）」に改め、これが確保出来なければ運転免許証の発行はしない。（車の運転は出来ないように改める。親戚・友人・知人から連帯保証が得られないときには保険に入る。そのような保険の新設・・・等）

※ 自動車運転は、年齢制限により「取得条件」が決められているが「車両を動かすことにより、自損事故・他損事故」は、避けられない事柄・・・。被害者が確実な補償を受けられるような制度に改める必要があると思っている。

※ 交通事故で「示談・被害弁償義務を行えない人」が、労役場留置で賄っても「被害者は納得

出来ない生活を強いられる」と聞いている。そのようなことを是正して欲しい。

◎ 自動運転技術が進み、これからの事故事例など全てを「予想・予測」することは出来ないが、長期間に亘り研鑽を重ねて「法・保証整備」をしっかりと行ってから実施して欲しい事柄と思っている。

モニターから No. 5

保険の加入で気を付けていることは、家族が加入している保険の補償範囲を把握しておくことです。例えば最近では子供がフィリピンに留学をするときに、旅行会社がすすめる留学保険に加入すべきか検討しました。すでに入っている保険でカバーできるものがあるはずだからです。損害賠償ならクレジットカードに付帯しているものや、自宅で契約している保険でカバーできる場合があるからです。留学団体が入っている保険には全員加入が原則でした。それにプラスして旅行会社がおススメする医療保障が充実したプランを追加するために加入するか検討し、医療費が安い国なので必要はないと判断しました。留学中、子供は骨折し3日入院しましたが、留学団体の入る保険内で無事にカバーできました。

今回の件で実感したのは、自分が加入している保険は整理しておき、すぐに補償内容が確認できる状態にしておくことが大切だということ。おススメされた保険プランにはすぐに飛びつかずに、本当に必要なプランなのか冷静に比較検討すること。また加入している保険の補償内容は詳細まで把握することはできないので、電話して確認することが大切だということです。（海外で損害賠償責任を問われたら誰が現地の人と交渉するのかなど）実際に保険会社に電話をするとサポートセンターで丁寧に教えてもらえます。これからも活用したいと思います。

モニターから No. 6

各種保険の加入にはとても気を使っています。自動車保険の任意保険は必ず加入します。毎日利用する自動車ですから、何かがあっては困ると思うからです。車両保険も必ず加入します。生命保険、自身に万が一のことがあっても、葬儀の費用くらいはすでに用意があるし、子供たちはそれぞれ自立していて遺産をあてになどしていないだろうから、加入しません。傷害・がん保険などは、いつどの程度の必要があるかは予想もできませんが、保険に加入して保険金を払うよりは、その金額を投資などで運用して資産を増やしているので、何かの時にはその資産で治療も入院も可能なので、保険会社に依頼するつもりはありません。

どの保険も、保険会社は加入者から集めた金を運用して増やし、加入者に何かがあった時に支払うという構造です。だから、保険会社に増やすことを任せるか、自身で増やすかだけの差です。保険会社はどこも立派なビルディングで、その中には私たちから集めたお金で高額な美術品その他などを集めて、社員は残業もなく楽な勤務で高額の給与をもらっています。それでいて一般に、保険会社は、何かあっても、「なるべく払いたくない」という姿勢で、加入時の説明ほどには親切に払ってなどくれません。わたしは、自身の資金で、自身で備えられるなら、保険会社に楽に儲けさせるのはやめようと思っています。

モニターから No. 7

私は、保険は一度加入したら終わりではなく、定期的に見直すことが大切だと考えています。特に、家族構成やライフステージ、収入の変化によって必要な保険は変わるため、その時々

った内容になっているかを確認するようにしています。必要以上の保証で保険料が負担にならないよう、また、万が一のときに十分な保障が受けられるよう、保険内容と保険料のバランスを意識しています。また自動車保険では、補償内容や特約を確認し、自分の運転状況や車の使用状況にあっているかを見直しています。保険会社や代理店の説明を聞くだけでなく、自分でも内容を確認し、複数の商品を比較したうえで加入することを心掛けています。

保険は万が一の時に備える大切なものですが、生活環境の変化に合わせて見直すことで、無理のない保険料で安心を得られると感じています。

モニターから No. 8

近代社会において物の購入は毎日行われていますが売り手・買い手による契約行為で成り立っています。契約とは法的な拘束力を持つ約束のことです。契約をするときは内容をよく理解したうえで本当に必要なのか判断が必要です。

- ・本当に必要か
- ・今すぐ必要か
- ・口頭での確認した内容が書面に記載されているか
- ・家族と相談しないで大丈夫か
- ・契約期間の最後まで続けられるか

以上について判断力が不十分な高齢者には特に必要になってきます。恥ずかしながら私が該当者でした。

私は上記の条項はまず確認しています。そして次について追加確認をしています。

① 契約内容の確認を用語の意味を含めて確認する。

② 本当にその契約は必要なのか。

③ 契約に対して義務と責任は何か。

④ 最終的に困ったときは消費者安全法をもとに消費者生活センターへの助けを求める。

年齢を重ねると基本的な処理は一人では無理なので家族・親戚を頼って処理をしています。

以上が契約行為について勉強し家族に迷惑をかけないように頑張っているところです。これからも私が行う契約行為は続けられると思いますが、家族に迷惑をかけず進めていきたいと思えます。

モニターから No. 9

保険は、生活する上でなくてはならないものというわけではありませんが、入っていれば安心というお守りのようなものです。病気がちであれば医療保険、残された者に迷惑をかけなければ生命保険、持ち家があれば火災保険、車を所有していれば自動車保険等です。すべて備えあれば憂いなしですが、保険料は年々値上がりし、近年では生活をおびやかす事態です。

医療保険は公的な保険、例えば高額療養費等でカバーしてもらえる点を考えれば、加入を見送ることもできるし、生命保険も後に残す人がいなければ不要かもしれません。火災保険に関しては私自身、東日本大震災の時にとても助けられた経験もあり、必要だと感じています。自動車保険も過去に何度も助けられています。近年は悪質な事故も増えており、任意保険は皆さんも入っているのではないかと思います。ただ、最近の自動車保険は細分化されており、これも必要、あれも必要とばかり項目を増やしてしまうと、思いもよらない高額になってしまうので注意が必要です。

いざという時の保障は大切ですが、今後は自分に最適な保障は何なのかを見極め、老後に向けてじっくり考えていきたいと思えます。

モニターから No. 10

車の任意保険や生命保険などの保険は、保険料が高額で家計を圧迫するため慎重に吟味して契約する必要性を感じます。長年にわたって、毎年同じ代理店で車の任意保険の契約を更新しています。車の任意保険は、特約や専門用語が非常に多く、消費者にとって内容の把握が困難なことが少なくないと感じておりました。現在の任意保険で適切な保障内容なのか確認するため、セカンドオピニオンとして、先日、複数社比較検討出来る来店型相談窓口に足を運びました。以前から、来店型相談窓口の存在は知っておりました。しかしながら、どうして相談料が無料なのか、強引に勧誘をされるのではないかと、といった懸念から利用を控えておりました。

実際に相談した感想としては、無理な勧誘はなく消費者の目線で親切に対応していただきました。多くの保険会社の商品を取り扱う来店型相談窓口などの保険ショップは、保険総合代理店であり、店舗や担当者によって接客の仕方が異なるのではないのでしょうか。まずは、相談のみであるのなら、消費者にとって賢い保険選びの一助になるように感じられました。

昨今、物価高騰や任意保険料の値上げで、20代の車の所有者の3割近くが、任意保険に未加入だと教えていただきました。20代の若者は、車に乗り始めたばかりで、等級が低い状況にあるため、高額な任意保険料を払えない人が少なくないという驚がくの事実に驚きました。また、自分に過失がない過失ゼロのもらい事故では、加入している自分の保険会社は、法律の壁があるため、相手方と示談交渉ができない。そのため、弁護士費用特約に加入して備えておくことは、消費者として非常に重要なことだと感じました。弁護士費用特約は、家族で1人加入していれば、同居する家族も保障の対象になるそうです。今回、来店型相談窓口でセカンドオピニオンを受けることができ、足を運んでよかったと思います。長年の付き合いのある代理店の保険の保障内容が、適切であると確認ができたように感じられました。しばらくの間、コストを大幅に下げることのできるネット保険には変更せずに、安心料として引き続き代理店契約を継続したいと思いました。

自分が契約している保険がライフスタイルに合っているのか最適な保障内容なのか、今回モニター通信を提出させていただくことで、保険について真剣に考えるきっかけとなりました。車の任意保険、並びに生命保険も同様に、定期的に見直す必要性を痛感いたしました。

モニターから No. 11

我が家は本当に保険には縁がなく、今加入しているのは自動車保険だけです。これは夫がまだ現役で働いていた頃、職場で入ったもので団体保険として扱われるため保険料が割安となるので選びました。退職したあとも継続できるのでそのまま続けています。数年前には私の自転車の保険をこの自動車保険に加えました。他の保険に加入していないことについては特別な理由はありませんが、夫があまり保険に興味がないことや、私自身が一度ならずしつこい生命保険の勧誘にうんざりしたことが保険に加入したいという気持ちになれない理由だと思っています。

ただ思うのはこれまで私にも家族にも大きな病気やケガがなく、保険に入っていればよかったという後悔がなかったことがどれだけありがたいことだったかということです。また現在ではガン保険や認知症保険、特定のリスクに特化したミニ保険など社会のニーズに応じて様々な保険商品が販売されています。加入する、しないにかかわらず、どんな保険があるかを知っておくことも必要かなと考えています。

モニターから No. 12

車の運転をしていて一番心配なのは人に危害を加えた時の損害賠償だ。と言う訳でもしもの時の為に自動車保険は気持ちの安定剤だ。加入しても保険を幸いなことに利用したことはまだないが、安心料だと思っている。損害保険は更新続けている生命保険会社のすすめで、これももしもの時の為に安心料だと思っている。どちらも年払いだし、もしもの時の精神安定剤だ。だが、生命保険は毎回死んだらこの金額が葬式代金になるのかなと言う気持ちで払い続けているが、いつも不思議な気持ちで引き落とされた金額をながめている。何回か手術をしているので、この際に振り込まれた金額で得した気分になっていることもあり、そのまま更新しているのが現実だ。

ただ今年から77才以上は毎年契約確認をするようになったと、タブレット上で確認作業をするようになったと言う。だが我が家周辺は電波状況があまり芳しくなく、なかなか上手く作動しない。結局書面を渡された。人に迷惑かけずひっそりと年を重ねたいと思っていたのに、思わぬ所で人を煩わせる状況に陥り、又来年確認に伺いますねとお帰りになった。因みに損害賠償保障は加入者が満額利用するので、昨年より500円弱上がっていた。各種保険の見直しはいつ考えたらいいのか悩ましい。

モニターから No. 13

保険という商品は、目に見えない商品で普段は役に立つ実感がありませんが、いざという時の安心を買うものだと思っています。一般的に保険をかける基準は、自動車事故などよく起こることや、一度起こったらリスクが大きいことだと言われています。現在、私は小さい子どもがいるので、医療保険や生命保険、住宅の火災保険などを毎月払っており、年間にするとなかなか大きい負担になっていると感じています。

そんな中で、僥越ながら私が工夫していることを3つ紹介します。

1つ目は不要な特約、内容を削ってできるだけ必要最低限にすることです。元々提案されているものは保証が手厚い分、不要そうなものがないか、重複するものがないか見直すように心がけています。

2つ目は相見積もりをとって複数社比較することと、相談するファイナンシャルプランナーを複数人作ることです。保険会社によって得意分野が異なったり、内容が若干違ったりするので同じ金額でも内容がより充実したものを選ぶことができます。そしてファイナンシャルプランナーも、取り扱える会社が専属なのか乗り合いなのかで違うので複数人いると安心です。

3つ目は勇気を持って解約し、その時のライフスタイルに合わせた商品を選ぶことです。昔の商品の中にはお宝のような保険もあると聞きますが、保険商品も毎年のように内容が変わっているので定期的にライフスタイルに合わせて保障内容を選んでいくことが得策だと聞きました。

保険をかけ過ぎて保険貧乏になっては困りますが、全く備えていないのも不安になってしまいます。また、子どもには苦しい思いをさせないように気も遣いたいものです。日本は健康保険以外にも、高額療養費制度などがあり、他の国にはないくらい制度が手厚い国です。過度に不安になり過ぎず、適度に備えていざという時に後悔のないように、定期的に自分の人生や保険商品を見直して過ごしていくことが大切だと考えます。

正直なところ、気をつけていることはほとんどありません。昔から、大手の会社と契約をしており、今後もその会社以外からの契約をするつもりがないからです。ただ、新しい商品など、色々なアイデアがいること、年齢を重ねるにつれてそのほかの保険をどうしていくのかなど、考えることは多くなったなという印象です。考える際に気をつけているのは、本当に必要なかどうか。全ての保険に加入する余力はないため、精査しながら必要なものを選ぶ力が求められているなと思います。(特にコロナ禍以降)

それと契約する会社は、倒産などのリスクがあるのかも重要に感じます。いくら保険内容がご自身に合っていたとしても、契約予定の会社様が倒産してしまっただけでは、どうしようもないですからね。大手を選ぶのは、このような理由も多いという人も増えているのではないのでしょうか？

最後に、保険ではなく投資にお金を使うという人も増えていると聞きます。選択肢が多いですが、各々にあったお金の蓄え方が、以前に比べたら本当に多いですね。

※ 掲載は提出順になっています。